

**学生が原子力災害被災地域の復興支援を考えるスタディツアー
8月28日（水）～8月31日（土）で開催**

独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」）は、福島県浜通りの原子力災害被災地域で学生が復興に携わる方々と出会い、フィールドワーク等を行うスタディツアー（以下「スタディツアー」）を『キモチ、あつまるプロジェクト 2024』と題して昨年度に引き続き実施します（行程は別添1参照）。

スタディツアーは5月9日から6月末まで参加者を募集し、参加人数 25 名の募集に対して全国から 200 名を超える応募がありました。6月1日にはプレイベントとして都内の会場で講演・パネルトークを開催し、その様子を全国へオンライン配信しました。プレイベントに参加した学生からは福島の復興について高い関心が示されました（別添2参照）。

スタディツアー参加者は3泊4日で福島県大熊町、双葉町、浪江町を訪問し、UR 都市機構がまちづくりを支援している地区を訪れるほか、これら地域のまちづくり会社や、浜通りでビジネスを行う方々との交流・意見交換、ワークショップ等を行います。

UR 都市機構は復興拠点整備等のハード整備だけではなく、交流人口・関係人口の創出・拡大や中心部の賑わい・交流づくりに向けて、地域プレイヤーの発掘・連携、関係者を巻き込みながらの実証活動を軸に、ソフト支援にも取り組んでいます。本企画は、その一環として行うもので、これからの未来を歩む世代が被災地域のことを知り、復興に関心を持ち、行動してもらうきっかけづくりとなることを目指します。

ワークショップ等の学生の活発な議論の様子と、原子力災害被災地域の今をぜひご取材いただけますと幸いです。

スタディツアー概要

- 日程：2024 年8月28日（水）～8月31日（土）（3泊4日）
- 参加人数：25 名（現在は募集終了）
- 参加者属性：
 - (1)居住地：北海道・東北 1 名、関東 12 名、中部 3 名、近畿 5 名、中国・四国 2 名、九州・沖縄 2 名
 - (2)年齢層：18 歳～25 歳
- 旅行企画・実施：グローバルエージェント株式会社（神奈川県知事登録第3種 1015）
- 主催 UR 都市機構
- 後援 復興庁、大熊町、双葉町、浪江町

（お問い合わせ先）※12/30～1/3 及び土日祝日を除く 10：00～16：00

■スタディツアーに関するお問合せ先（事務局）

朝日新聞社メディア事業本部アカウントソリューション 5 部 木内（きうち）（電話）03-5540-7743
UR 都市機構 災害対応支援部 企画課 上片平（かみかたひら）（電話）045-650-0380

■報道関係の方からのお問合せ先

UR 都市機構 災害対応支援部 企画課 佐藤（さとう）（電話）045-650-0871
広報室 広報課 （電話）045-650-0887

＜参考＞UR都市機構が行う原子力災害被災地域における復興まちづくり支援

●支援3町における主な取組

■大熊町

- ・下野上地区の復興拠点整備(町から受託)
- ・地域活動拠点「KUMA・PRE」をフィールドとする関係人口の拡大やまちの活性化に向けた各種実証の取組



■双葉町

- ・双葉駅西側地区の復興拠点整備(町から受託)
- ・双葉駅東エリアにおける既存ストック活用による賑わい再生に向けた取組



■浪江町

- ・浪江駅周辺地区の復興拠点整備(町から受託)
- ・情報発信・交流スペース「なみいえ」の運営や地域イベント等への参加・協力



●復興支援地図



※復興まちづくり支援の具体的内容は、

下記 URL をご参照ください。

<https://www.ur-net.go.jp/saigai/index.html>



【UR都市機構】

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



【行程表】

1日目 8月28日（水）～東日本大震災・原子力災害について学ぶ～

時間	場所	プログラム等
11:15	双葉駅	・ 集合
12:45～	東日本大震災・原子力災害伝承館	・ 施設見学
14:00～	震災遺構 浪江町立請戸小学校	・ 施設見学
15:30～	中間貯蔵施設	・ 施設見学
18:00～	いこいの村なみえ	・ 花とお酒による復興・地域再生への取組紹介（Ichido）

2日目 8月29日（木）～復興まちづくりについて学ぶ～

時間	場所	プログラム等
9:45～	浪江駅周辺地区（浪江町）	・ 復興まちづくり地区視察
10:45～	道の駅なみえ	・ まちづくりなみえの取組紹介
14:00～	大川原地区（大熊町）	・ 復興まちづくり地区視察
14:30～	link る大熊	・ おおくままちづくり公社の取組紹介
15:45～	下野上地区（大熊町）	・ 復興まちづくり地区視察
16:30～	双葉駅西側地区（双葉町）	・ 復興まちづくり地区視察
17:15～	双葉町産業交流センター	・ ふたばプロジェクトの取組紹介 ・ ちいさな一歩プロジェクト「ふたば飲み」 別添3 参照

3日目 8月30日（金）～地域の復興への取組みについて学ぶ～

時間	場所	プログラム等
9:45～	大熊インキュベーションセンター キウイフルーツ圃場（大熊町）	・ 新規就農・起業者のキウイフルーツ再生の取組紹介（ReFruits）
12:30～	サムライガーリック圃場（浪江町）	・ 相馬野馬追とニンニク栽培の取組紹介（ランドビルドファーム）
14:00～	フタバスーパーゼロミル（双葉町）	・ 浅野燃系工場見学
15:15～	双葉町産業交流センター	・ ワークショップ（感想・学びの共有）

4日目 8月31日（土）～ワークショップ「キモチあつまる会議」～

時間	場所	プログラム等
9:30～	双葉町産業交流センター	・ ワークショップ（私たちにできること）
13:00～	双葉町産業交流センター	・ ワークショップ（みんなで発信しよう）
15:35	双葉駅	・ 解散

※上記行程は現時点の予定となります。今後の検討調整、当日の天候等によって変更となる場合があります。

【原子力災害被災地域の復興支援を考える学生向けスタディツアーのプレイベントについて】

6月1日（土）、UR都市機構が主催するスタディツアー「キモチ、あつまるプロジェクト 2024」のプレイベントを開催しました。

プレイベントでは、8月開催予定のスタディツアーの紹介（現在は募集終了）のほか、UR都市機構若手職員による原子力災害被災地域でのソフト面からのまちづくり支援をテーマにした講演や、福島県双葉町と大熊町を拠点に地域ブランディング等に取り組む川上友聖さん（東京大学大学院情報学環教育部在学）を交えたパネルトーク等を行いました。

都内の会場では24人の学生が参加し、その様子を全国にライブ配信しました。ライブ配信は下記公式サイトでアーカイブ視聴可能です。

会場では参加した学生と登壇者による座談会を開催し、学生からは「福島にはたくさんの人が関わって復興が進んでいることを初めて知った」、「今すぐにでも福島に行ってみたいと思った」という声が寄せられました。

<キモチ、あつまるプロジェクト 2024 公式サイト>

<https://www.asahi.com/ads/kimochi-atsumaru2024/>



開会あいさつ
(UR都市機構災害対応支援部 佐藤)



UR都市機構の取組についての講演
(UR都市機構東北震災復興支援本部 島田)



トークセッション
(左から朝日 DIALOG 編集長 今村尚徳さん、川上友聖さん、UR都市機構 島田)



座談会

ちいさな一歩
プロジェクト  9
歩目

ふたば飲み × ふたばの おと 声

双葉駅前で開催されている飲食交流会“ふたば飲み”
2022年に始まった、みんなでつくるちいさな音楽会“ふたばの声”
今年の夏は双葉町産業交流センターにて同日開催します！

2024年 8月 29日 木 開場 16:00
スタート 16:30~20:00

会場：双葉町産業交流センター (F-BICC)

※東日本大震災・原子力災害伝承館の隣
※双葉駅前～会場間を無料で行き来できるシャトルバス運行



主催・共催：ちいさな一歩プロジェクト事務局（UR都市機構、一般社団法人ふたばプロジェクト、コラボ合同会社）
F-BICC イベント実行委員会 ※ふたばの声事務局
後援：双葉町

お問い合わせ先：ちいさな一歩プロジェクト ふたば飲み：090-6501-3749（河田）
ふたばの声：070-5074-9804（山根）

イベントの最新情報は、こちらで随時アップデート！



ちいさな一歩 PJ



ふたばの声